

苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 10 回 定例委員会
日時	平成22年7月23日 自 15時01分 至 17時28分
場所	苫小牧市役所第2庁舎2階会議室
出席委員	委員長 吉本 俊憲 委員 鈴木 正樹 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 山田 眞久
欠席委員	
会議録署名委員	鈴木 正樹 委員
会議録作成職員	総務企画課総務係主事 近江谷 健
事務局職員	学校教育部長 須藤 孝生 スポーツ生涯学習部長 小野寺 徹示 学校教育部次長 福田 小夜子 指導室長 岩井 真二 学校教育課長 田中 章嗣 総務企画課長 戸村 真規 総務企画課総務係主査 三橋 大輔 総務企画課総務係主事 近江谷 健
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（吉本委員長） …15時01分
2	会議録署名委員の指名（鈴木委員）
3	報 告（教 育 長）
	・中学校は昨日から夏季休暇に入り、小学校も本日終業式で明日から夏季休暇に入る。
	今年は大変恵まれ、1学期最大の行事である運動会や体育祭も苦小牧にしては珍しく100%予定日に実施できた。7月は宿泊学習のシーズンだが、先般の浜名湖でのボート転覆や美瑛町で起きたウォークラリー中の行方不明など、野外の体験学習は天候に左右されやすい環境もちがうということで、そうした状態に臨機応変に対応できるような教師の配置やチェックの方法、体調管理と緊急対応策など、十分に気を付けて指導に当たるよう注意を呼び掛けた。
	・1学期は窓ガラスが割られたり、公共物が破損されたりするような事件が起きる時期で、千歳では同じ中学校で被害が2回あったが、幸いにも本市では今のところ大きな被害の報告はない。ただ、先般夕張市の中学生が部活動後に川遊びをし、二人が流され一人が深みにはまって水死したという事件が起きているので、夏季休業中の生徒指導、特に遊泳禁止である本市の周辺海岸での事故防止の徹底を指示している。
	・次に、7月3日土曜日に「子どもを守り心を育てる強調月間」の啓発集会が開かれ、各学校の努力で今年はすべての学校の児童生徒が参加してステージ上でメッセージを発表することができた。大人側が連携して子ども達を見守るという意図でこの活動は始まっており、協賛団体の自主的な活動をベースに様々な取り組みが進められていて、子ども達自身もその輪の中に入り、双方向で互いが取り組みを共感し合う中で、心を育てていく集会へと発展している。先の校長会議では私から参加へのお礼を述べると

ともに、今回大勢参加してくれた保護司会の皆さんには、例年秋の中学生主張発表大会にも積極的に参加いただいていることから、こちらも是非盛り上げるよう学校側にも呼びかけた。

・次に、7月3日に胆振管内教育長会議があった。いくつか教育局から話があったので数点お話しする。ひとつは教職員人事の課題で、郡部と都市部の交流や長期勤務者の異動が停滞していることから、異動に関する要項を見直そうという話になった。それから、フッ素化物洗口の話があった。北海道は全国と比べても虫歯が多い地域に入っているので、小学生の段階でフッ素化物でうがいをすることによって虫歯を減らすというのが狙いだ。道教委はこの3年間でどんどん進めていきたいということで、管内では壮瞥町と厚真町を指定して取り組んでいる。私も厚真中央小学校へ行き様子を見てきたが、冷蔵庫に冷やしたフッ素化物を週に1回配するというもので、苫小牧でも取り組むとなると保管場所の確保や短時間での実施など、大変な作業になるだろう。また、本来は劇薬であるフッ素に対して、希釈してはいるものの不安感を持つ市民も出てくるだろう。いずれにせよ8月に研修があることから、市内の各学校から最低一人は参加するようお願いしている。そして、教師の時間外勤務の縮減について、例えば年2回の縮減週間を作ろうだとか、月2回以上は定時退勤をするよう呼びかけをしている。一方で授業日数が増えているということもあり、教師の負担は増えていることから難しい問題であると考える。さらに長期休業中の服務について、校外研修については校長が適切に判断して承認することや、自宅での休養や職務と関係ないものは不当であるということ、研修内容を精査し報告書を提出させて確認するという要請があった。

・学校は夏季休業中も本来の業務を継続しており、勤務の記録をきちんと残しながら、資質向上を目指す自己研修シートと関連付けて教育研究所の研修講座や研究会に参加してもらおうよう対応している。また、部活動指導や不登校児や問題を抱える児童生徒への家庭訪問、あるいは学力向上のための補習授業などの支援を計画的に進めなければならないと思う。併せて、先ほども言ったが暑くなると海岸で泳ぐ児童生徒が出て

<p>くるので、教員やPTAで巡回して事故のないように対応していきたい。</p>
<p>・これからの行事関係だが、本日から26日までは全道教職員体育大会が本市を中心に開催される。教員のみなさんは、選手や運営役員として多忙となるが、事故なく盛会裏に終了するよう終了するようお願いしている。27日はPMF演奏会、30日は全道中体連のソフトテニス大会、さらに8月3日からは第5回目となる選抜高等学校アイスホッケー競技大会が開催される。この期間は苫小牧港まつりとも重なり、実行委員会から審査員を依頼されている教育委員もいると思うので、よろしくお願いしたい。</p>
<p>また博物館では7日から「紙を作る、紙で作る」という特別展示が始まり、オープンセレモニーが予定されている。このように行事が慌ただしく続くが、夏の賑わいを実感する季節なので、よろしく協力願いたい。なお、2年間ALTとして指導にあたったカナダ人のケビンとニュージーランド人のユインが今月で退職し、8月から新たな二人が着任するのでその時にはまたお知らせしたい。</p>
<p>・最後に、教育委員の皆さんは先日15日に学校視察で泉野小学校と開成中学校を訪問し、授業の様子や施設の見学、学校管理職との意見交流をしていただき感謝する。</p>
<p>さらに何か気付いた点があればご意見をお願いしたい。</p>
<p>(吉本委員長) 本件について質問があればお受けする。</p>
<p>(佐藤守委員) 小学校のフッ素化物の関係だが、歯科医の先生方からも効果があると言われるが、現時点で市内においてモデル校を選定するような予定はあるのか。</p>
<p>(山田教育長) 今のところはない。ただ、24年度までに全道すべての学校で実施したいというのが道教委の考えなので、予算の関係もあるが一斉に実施するのかモデル校を作るのか、今後の検討課題だ。</p>
<p>(佐藤守委員) 先ほど仰っていたが、フッ素化物について毒性があるとか、変に思っている人が多いような気がするので、安全なら安全だという周知の徹底をお願いしたい。モデル校を選ぶなら、やってよかったという話が</p>

<p>広まればいいと思う。</p>
<p>(山田教育長) 他の先進国においては何年も前から実施しているところもあり、水道</p>
<p>水に混ぜているところもあるようなので心配はないと思うが、一部の</p>
<p>保護者には不安感が残るだろうし、食の安全と同じように健康には非</p>
<p>常に敏感になっているので、きちんと説明や準備をしていかなければ</p>
<p>ならない。また、実施するときになって保護者から「うちの子は受け</p>
<p>させない」と言われたときなどの対処等、様々な課題がこれから出て</p>
<p>くるだろう。</p>
<p>(佐藤守委員) もうひとつ伺う。教職員の残業の件で、心配しているのが中学校の部</p>
<p>活動だが、指導にあたっている先生達は部活動終了後も20時、21</p>
<p>時頃まで残っている姿を見かける。サービス残業という形だと思うが、</p>
<p>それを減らすとなると部活動に影響も出てくるのではないかと心配し</p>
<p>ている。</p>
<p>(山田教育長) なかなか難しいところだ。部活動については指導者に対して手当てが</p>
<p>出ているので、まったくの無給ではないが、行き過ぎた部活動に関し</p>
<p>ては見直そうという論議がされている。例えば週に一度は休むとか、</p>
<p>土日にはなるべく実施しない、やったとしても短時間に留めるだとか、</p>
<p>時間外縮減とセットで論議はされている。そうはいつでも強制力があ</p>
<p>るものではないので、学校ごとに差がある。勤務時間を縮減するよう</p>
<p>言ったときに、それを理由にどんどん早く帰る先生もいるが、一所懸</p>
<p>命ももっともやりたいという先生が逆に居づらいという問題もある。</p>
<p>先生によってモチベーションの持ち方がちがっているが、いずれにせ</p>
<p>よ残業は減らすということで呼びかけを行っている。どの学校も時間</p>
<p>外縮減については頭に入れながらも、やむを得ずやっているというの</p>
<p>が現実だ。</p>

4 議案審議
議案第1号 苫小牧市立学校管理規則の一部改正について
(学校教育部長)
・苫小牧市立学校管理規則の一部改正について説明させていただく。本件は学校評価に関わる学校教育法施行規則の改正により苫小牧市立学校管理規則の一部を改正するものである。改正内容は、学校評価に関する条項の追加である。(以降、議案第1号資料に基づき説明)
(吉本委員長) 本件について質問があればお受けする。
(佐藤守委員) 学校評価の結果を毎年1回委員会に報告するとあるが、時期的にはいつ頃になるのか。
(指導室長) 年度末の2月から3月にかけての報告になる。
(佐藤守委員) 学校関係者評価の公表について、努力するとしたことには何か意味があるのか。
(指導室長) 学校教育法施行規則に準じて定めている。
(山田教育長) 今回市教委で新しく規則を定めたのではなく、学校教育法に沿ったものである。
(吉本委員長) 学校によっては、校長先生の判断等により学校関係者評価を行わない場合もあるのか。
(指導室長) 自己評価については各学校の学校評議委員に報告し、意見をいただくというシステムができていますので、それを含めるとどの学校も学校関係者評価を行っているということになる。
(吉本委員長) 学校評議委員から意見を受けた後の公表の仕方は、学校によって多少

<p>変わるのか。</p>
<p>(指導室長) そのとおり。ただ本来の学校関係者評価というのは、学校評議委員のみならず地域町内会の方や様々な有識者を募り学校関係者評価委員会を設置して、その中で学校長が自己評価を公表・報告し、それに対して委員会から意見をいただくというものである。今後、より適切な形態を組織して学校関係者評価を行っていくことが最終目標となる。</p>
<p>(吉本委員長) 他に質問等がなければ、議案第1号について承認してよろしいか。</p>
<p>(一同「異議なし」の声)</p>
<p>－原案どおり承認－</p>
<p>議案第2号 苫小牧市立幼稚園園則の一部改正について</p>
<p>(学校教育部長)</p>
<p>・苫小牧市立幼稚園園則の一部改正について説明させていただく。これは国の幼稚園就園等奨励補助制度の改正に伴い、減免限度額の改正を行うものである。先の委員会で了解をいただいたパブリックコメント関係の規則改正という形になる。(以降、議案第2号資料に基づき説明)</p>
<p>(吉本委員長) 本件について質問があればお受けする。</p>
<p>特にないようなので、議案第2号について承認してよろしいか。</p>
<p>(一同「異議なし」の声)</p>

－原案どおり承認－

議案第 3 号 苫小牧教育委員会事務局の組織等に関する規則及び

苫小牧市科学センター規則の一部改正について

議案第 4 号 機構改正に伴う任免等の発令の特例に関する訓令の設定について

(スポーツ生涯学習部長)

・まず議案第 3 号について、平成 22 年 8 月 1 日から苫小牧市及び教育委員会ではスタッフ制を導入することになった。(以降、議案第 3 号資料に基づき説明)

・勇払公民館についてもフラット制を導入したらどうかという意見もあるが、同公民館は現在館長が嘱託職員となっている。フラット制になると館長または課長が自由に課長補佐以下の職員の配転を決められるということで、そういった権限をすべて嘱託職員に任せてもいいものかという点がまだ苫小牧市全体で詰まっていない。中央図書館についても、グループ制は検討しているがフラット制の導入の予定はない。埋蔵文化財調査センターについては主査しか配置されていないので、実質はフラット制の運用になっている。勇武津資料館についても正規の職員がおらず嘱託職員しかいないため、先ほどの勇払公民館と同様の理由で見送った。(以降、再び議案第 3 号資料に基づき説明)

・次に議案第 4 号について説明する。(以降、議案第 4 号資料に基づき説明)

・これは 8 月 1 日付けで市長部局と同時に行うもので、その他に選挙管理委員会、監査委員会の事務局も同様の形でフラット制によるスタッフ制の導入となった。

(吉本委員長) 係長職が廃止されても係としての組織は残るのか。

(スポーツ生涯学習部長) 係は削除される。

(吉本委員長) 今後係長という立場は空席にしておくという訳ではなく、完全になく

<p>なってしまうのか。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) はい。</p>
<p>(吉本委員長) その意図は何か。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 現行の組織では係ごとに業務を定めなければならないため、法的には他の係の業務は行わず、自分の島だけ守っていればよいという状態になっている。もちろん実際には業務を手伝うことはあるが、そういう弊害が出てしまっている。スタッフ制を導入する一番のメリットは、所属長の権限によって業務の繁閑に併せて職員を自由に配置できることである。なお、グループ制は係制と同様に、例えばAグループとBグループがある場合、グループ間を横断しての業務が係制と同様にスムーズに行かないのではないかということもあり、導入を見送った。</p>
<p>(吉本委員長) スムーズな行政執行につながるということがわかった。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 私のところで述べさせてもらおうと、文化振興課社会教育係は係長はいるが係員がいない。普通は係長がいれば係員が付くが、昨年からはスタッフ制を視野に入れており、我々としては係長一人という異質な部分が解消されて仕事の上ではやりやすくなった。</p>
<p>(吉本委員長) 他に質問等がなければ、議案第3号及び議案第4号について承認してよろしいか。</p>
<p>(一同「異議なし」の声)</p>
<p>—原案どおり承認—</p>
<p>利</p>
<p>議案第5号 「平成22年度教育委員会点検・評価報告書」について</p>

(学校教育部次長)
・平成22年度教育委員会点検・評価報告書について、事前に配布している案に沿って説明する。(以降、平成22年度教育委員会点検・評価報告書(案)に基づき説明)・以上、内容についてご審議を宜しくお願いしたい。
(吉本委員長) 福田次長から説明があり繰り返しになるが、山田教育長が今年の議会において平成21年度教育行政執行方針という項目の承認をいただいたと思うが、この教育行政執行方針に基づいて、学校教育の充実と社会教育の関連ということでそれぞれの事業が行われてきた。その内容について各担当部署で評価されたものが報告書にまとめられている。各項目はA B C Dの4段階にそれぞれの担当部局から評価されているので、大きな項目ごとに文字を追って意見があれば述べていただきたい。
(吉本委員長) まず、施策1の「社会で生きる実践的な力の育成」の項目についての質問をお受けする。
(佐藤守委員) 学力向上研究委員会の設置についての評価はなぜBとなったのか。
(指導室長) 学力向上研究委員会でまとめたものを今後具体的に実践していく必要があり、今後推進していく余地があるということでBとした。不十分というよりも、これからの問題だという位置付けである。
(吉本委員長) 小学校へのA L Tの派遣が今年度から本格的になっていると思うが、どのような活動が行われているのか。
(指導室長) 20年度までは中学校に派遣して、その空き時間に小学校にも行ってもらっていたが、21年度の3学期からは試行的に2週間、希望する小学校へA L Tを派遣し、様々な場面で児童と共に過ごした。今年度も継続して行われている。またA L Tが1名増えたことで、教職員の英語研修等も積極的に行われたし、非常に密度の濃い有意義なもの

<p>なった。</p>
<p>(山田教育長) 来年から正式に学習指導要領が変わるが、今の段階だと学校によっては年間数時間と、少なめだ。それでも小学校のことを考えて4人に増員したが、この人数でいいのか、もっと呼んだ方がいいのではないかという問題もあり非常に難しい。先日行ってきた厚真町は、中学校が2校しかないのにALTは2名もいる。小学校は4校あるが来年統合して2校になる。英語だけでなく他の授業の時間にもそばに外国人がいるという環境ができ、力の入れ方がすごい。</p>
<p>(佐藤郁委員) 評価の仕方について、課題が残っていても評価をAとしているのは、なぜなのか。</p>
<p>(指導室長) 不十分であるという課題と、更に発展させるための方策が必要という課題の2通りがある。</p>
<p>(佐藤郁委員) このまま継続して行っていいというのがAで、改善をするのがBだと解釈していたが、また別の捉え方なのか。</p>
<p>(指導室長) そのとおり。</p>
<p>(佐藤郁委員) どこを基準に継続していくのか、どこを改善するのかというのが表だけではわかりにくい。例えば学習指導講座の受講者が増えているというのであれば、その内容が添付されていればAという評価がわかるが、そうではないのでAとBの境目がわかりにくい。</p>
<p>(指導室長) 数値でなかなか評価ができず、どこをもって十分達成できてAとするかという評価基準が難しい。反省が見られなかなか進展していないようなところはBで、何らかの形で前進・推進されたということが顕著な場合はAとしている。</p>
<p>(鈴木委員) 情報教育に関連して、電子黒板は今後も予算があれば増やしていくのか。それとも今整備されているのでAという評価なのか。</p>
<p>(学校教育部長) 電子黒板は各学校に1台整備されたので、活用していくことが今後の</p>

<p>課題となる。台数を増やすことは今のところ考えていない。研究所の研究委員会等において、どういう形で実践していくのかという方向性が見えてからになる。</p>
<p>(学校教育課長) 基本的にプロジェクターだとか、各教室のテレビを大型化してパソコンにつなぐことによって電子黒板並とまでは言わないがある程度の電授業をすることが可能になってきている。</p>
<p>(吉本委員長) ほとんどの学校で特別支援学級が設置されており、本市の特別支援教育も充実してきたように感じる。</p>
<p>(指導室長) まだ若干課題は残っているが、精力的に特別支援教育の考えが示されてきている点は優れていると思う。</p>
<p>(吉本委員長) 次に、「豊かな心と健やかな身体(からだ)の育成」について進めさせていただく。いのちの授業の講師登録には教員免許は必要ないので、社会人・企業家など、どんどん登録が進んでいけば良いと思う。</p>
<p>(山田教育長) 大いにPRしたいと思っている。登録されていなくても、学校が独自に見つけている場合もある。登録まではしていない人を含めるとけっこうな人数になるのではないかな。</p>
<p>(吉本委員長) 健康教育に関しては啓蒙活動が進んでいるようだ。</p>
<p>(指導室長) 性教育など最近の教育の大きな課題となっているので、学校は非常に熱心に取り組んでくれているが、それ以上に様々な問題が拡大しているためBとした。</p>
<p>(佐藤守委員) 本に親しむ活動の推進について、課題が示されていないのに評価がBとなっている項目があるのはなぜか。</p>
<p>(指導室長) 児童・生徒や学校による朝読書や読み聞かせ等の取り組みは非常に進んでおり、効果として子ども達が読書好きになっているというのがデータに表れてきている。しかし、状況整備を図書ボランティアに頼る部分が多いことが課題であるためBとした。</p>

(佐藤郁委員) 本はどのような基準で廃棄しているのか。
(学校教育課長) 基準は無いが、やはり古くなってしまったものや情報が更新されて必要なくなってしまった場合等に廃棄対象としている。
(佐藤郁委員) 児童生徒の扱い方が雑で廃棄する本が増えているという問題がある。
(山田教育長) 学校からは廃棄していいかという伺いが教育委員会に上がってくる。
(佐藤郁委員) 読み聞かせの盛んな町なので、ぼろぼろになって廃棄しているのかと解釈していたが、そういう問題だけではないのか。
(学校教育課長) やはり情報が古くなって、ということである。
(佐藤守委員) ボランティアの保護者が修復してくれることもあるようだ。
(学校教育課長) よく読まれている本は傷みやすいが、保護者が修復してくれたりする。
(吉本委員長) それでは次に「信頼される学校づくりの推進」について質問をお受けする。
(山田教育長) 各学校のホームページはぜひ縦覧していただきたい。
(佐藤守委員) 情報が更新されていない学校がかなり見受けられる。
(佐藤郁委員) ホームページの更新は各学校独自に行えるようになっているのか。
(山田教育長) 独自に更新できるようになっている。学校によっては様々な活動紹介をしたり学校便りを載せたり、ホームページを見ればよくわかるようになっているところもあるし、そうでないところもある。肖像権の問題等様々な制約が出てきており、学校側も億劫になっているのかもしれない。
(佐藤郁委員) 更新の状況にばらつきがあるのは、学校側はある一定のところまでは更新できるが、どこかで縛りがあるとか、そういう訳だからではないのか。
(指導室長) 得意な先生がいるといいのだが、更新の仕方もわからない先生だけになってしまうと、内容を変えるよう指示しても変え方がわからないという状況にある。

(吉本委員長) パソコンはテレビほどの充足率はないので仕方ないかもしれない。
(山田教育長) 例えばパソコンでメールができるが携帯電話でもできるので、みんなそっちに目が行ってしまっている。そういった意味では、力を入れてホームページを作っても、実際に見てくれる保護者がどれほどいるかという問題があり、学校としても力が入らなくなってしまうように感じる。
(吉本委員長) 今後また努力をしていただく。次に進むが教職員の資質・能力の向上については、積極的に取り組んでいるように思う。
(山田教育長) 研究講座の参加者は、かなり増えてきている。
(佐藤守委員) 項目にはないが、学校規模適正化基本方針についての評価はどこかに入ってこないのか。
(学校教育部長) 教育行政執行方針を作成する段階ではまだ具体案が固まっていなかった。
(山田教育長) 今後出てくる。
(吉本委員長) それでは施策1の最後、「地域全体で子供を守り育てる体制づくりの推進」についての質問をお受けする。
(佐藤守委員) 小学校のキャリア教育とは具体的にどのようなものなのか。
(指導室長) 職場訪問や工場見学等を通じて、自分の将来を考えてもらうことである。キャリア教育というと中学校に焦点が当てられることが多いが、小学生から積み重ねた方が良いという考えになってきている。内容としては中学校と同様になっている。
(佐藤守委員) 職場等ではなかなか受け入れ先がないと聞いたが。
(山田教育長) 職場というのではなくて、例えば「ようこそ先生」という課外授業やいのちの授業等で医者や助産師などの話を聞いてもらう中で、自分もそういう道を選んでいきたいと思わせるような、そういう機会を上手に与えることが重要だ。小学校の場合このような意識はまだ乏しいよ

うである。
(鈴木委員) 職業体験学習は工場見学などに行っているのか。
(佐藤守委員) 自衛隊にも行っている。
(指導室長) 中学生の場合は、将来の夢に合わせて農業だとか漁業だとか、受け入れ先を調べて依頼し、実際の仕事内容も経験させていただくような形で実施されている。
(鈴木委員) 製造業では、人が少なくなってきたおり、また回転体のような危険なものが剥き出しになっているところもあると思う。怪我をされては困るので、子ども達を受け入れてもらうことも難しくなってきたのではないかと思う。
(指導室長) 中学生の場合は、職場「体験」ということになるので、実際に何らかの仕事を経験させてもらう。例えば農家に行って手伝いをするとか、漁船に乗って網を引いて魚を捕るとか。先日は弁当屋での弁当作りの様子が新聞に掲載された。他に幼稚園や保育園に行って手伝いをしてもらったり、小学校に行って授業の手伝いをして、教師の仕事とはどんなものなのかという体験をしてもらったりした。出来る限り子どもの希望を叶えられるよう、各学校苦勞して受け入れ先を広げているところである。
(佐藤郁委員) 苫信では金融セミナーで中学生に対してお金の勉強を行っているようだが、苫信側から中学校に発案しているものはキャリア教育には入ってこないのか。
(指導室長) 将来銀行員になりたいという生徒がいれば1～2日お邪魔することは考えられるが。
(山田教育長) 企業と学校の繋がりであるが、キャリア教育とは異なってくる。
(吉本委員長) 安全対策の推進については、様々な形で保護者との連携をとりながら子ども達の安全対策を担っていかなければならない。保護者の安心を

<p>100%確保することは難しい分野だが、絶えず心配りをしながら対応していくことが求められていると思う。</p>
<p>それでは、施策2の「社会教育の充実」に進ませていただく。まず「生涯学習の推進」について意見・質問をお受けする。</p>
<p>(山田委員長) 障がい者パソコン教室は好評だ。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) パソコン教室サポート要員としてボランティアを募っているが、高齢化などの問題で人材の確保が難しくなっているため、その点を課題としている。</p>
<p>(山田教育長) この活動は高く評価されており全国大会にもレポートを提出している。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 全国の社会教育の中で事例として取り扱われた。生涯学習だよりも広告を掲載し、その広告料を財源に充当していたが、今年の8月頃から広告は難しいということで、財源的に苦しくなってきた。</p>
<p>(吉本委員長) 心身障害者福祉センターでIT関係の講座を行っていたと思うが、同じものか。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 同じだ。生涯学習推進課の職員や相談員が教えている。視覚が不自由な方向けと、体の動きが不自由な人向けの2種類行われている。</p>
<p>(吉本委員長) 我々を含めスタッフのみなさんで知恵を出し合って、このような事業を拡大していけるような努力をしていきたい。</p>
<p>次に、「青少年の健全育成」に進む。</p>
<p>(佐藤守委員) 家庭教育学習会が毎年実施されているが、参加人数が18会場で19人というのはどうかと。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 家庭教育学習会とは、生涯学習アドバイザーの先生が初歩的な家庭教育指導を行うものである。他にも同様の催し等があるようで、本学習会への参加人数が伸び悩んでいる状況にある。</p>
<p>(佐藤守委員) 子ども連れでも参加しやすいような環境作りはされているのか。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 児童館で行っているため午前中は親子で遊ぶなど環境は整っているの</p>

<p>で、内容に問題があるのではないかと思います。</p>
<p>(佐藤守委員) 場所によってはこのような講座の需要は増えているようだが。</p>
<p>(佐藤郁委員) サークル等が増えたために、分散しているのだろう。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 保健福祉部とも連携して利用者を増やしていかなければならないと考えている。</p>
<p>(吉本委員長) 待機児童の解消は図られたのか</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 留守家庭児童会は概ね40名程度で運営しているが、拓勇小とウトナイ小の児童が増加し待機児童も増えたので、両学校に1学級ずつ増やしたことにより、待機児童の解消が図られた。</p>
<p>(吉本委員長) 児童館の活動についてもだいぶ整備されてきたようだが。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 今年度にオープンした錦岡児童センターについては、利用者が多く十二分に活用できている。</p>
<p>(吉本委員長) 児童センターは今年度に完成しているので、評価はDとなるのでは。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) Dに訂正する。</p>
<p>(吉本委員長) 次に「文化芸術の振興」に進む。</p>
<p>(山田教育長) 文化芸術に関する事業はそれぞれすべて実施されたということだが、集客数等は予定通りだったのか。</p>
<p>(スポーツ生涯学習部長) 資料には載せていないが、基本構想の5ヵ年計画において人数の目標を設定しており、それとの比較では達成していると判断した。</p>
<p>(吉本委員長) 次に「社会教育施設の充実」に進む。</p>
<p>(山田教育長) 科学センターのミールに関する事業は好評だったようだ。</p>
<p>(吉本委員長) 今後も秋山氏の講演等、様々なイベントが行われる。</p>
<p>(佐藤郁委員) 図書館の本については紙媒体が少なくなっているようだが、徐々に電子ジャーナル化され紙の本が少なくなる一つの理由として、図書館の狭隘化がどこでも問題になっているが、目標の50万冊に達しても大丈夫なのか。</p>

(スポーツ生涯学習部長) 十分な余裕がある。
(山田教育長) 勤労青少年ホームの一般利用者はどのくらいいるのか。
(スポーツ生涯学習部長) 有料ではあるが体育館等の開放を行っているので、利用者自体は増えている。しかし、35歳以下の勤労青少年の利用は伸び悩んでいる。
(山田教育長) もったいないのでもっと有効に活用できればいいのだが。
(吉本委員長) 別の施設もできているので、利用者がそちらにシフトしているのかもしれない。
最後に「スポーツの振興」に進む。
(山田教育長) イキイキ健康大作戦は今後も継続されるのか。
(スポーツ生涯学習部長) 20年度の事業だが21年度は市内8地区に分かれてウォーキング祭りを実施した。スタンプラリー等も今後継続していくか検討している。
なお、当初予定していた全日本大学アイスホッケー選手権大会については、アイスホッケー連盟より実施できなくなったとの報告があった。
市では当初より予算化しており、本市側の理由で中止となった訳ではないので評価はAとした。
(吉本委員長) どのような理由で中止となったのか。
(佐藤守委員) 大学とアイスホッケー連盟の連携がうまくとれていなかったため、先延ばしとなったようだ。
(吉本委員長) 全体を通してお気付きの点があればお受けする。
(佐藤郁委員) 先ほどのアイスホッケー選手権大会の中止は評価なしとすべきでは。
(学校教育部長) この事業にたくさんの方が参加し、支援してきたという「内容」で評価をAとした。
(佐藤郁委員) それでは成果を記載した上で評価をAとしていただきたい。
(佐藤守委員) 成人式についての評価は含まれないのか。
(スポーツ生涯学習部長) ここでは臨時事業をピックアップしているので、成人式は含んでいない。

(吉本委員長) 他にはないか。
(学校教育部長) 一点追加説明させていただく。スポーツ施設整備の充実の項目だが、平成21年度教育行政執行方針に沼ノ端の健康増進施設の建設着手について載せており、21年度から実際に着手しているなのでこの項目に追加していただきたい。
(吉本委員長) 了承した。他に質問や意見等がなければ、議案第5号について修正した分も含めて承認してよろしいか。
(一同「異議なし」の声)
—原案どおり承認—
議案第6号 教職員の処分について
(人事案件のため、秘密会とする旨議決する)
5 協 議
協議案件なし
6 その他
案件なし
7 委員会閉会の宣言 (吉本委員長) …17時28分